

た。そいつが閣下、鐵條網の近くへ行きますと、火をつけた破壊筒を持つたまま、體ごと飛び込んでしまつたのであります。すると一大爆音、砂ぼこりが立ち上りました。その跡を見ますと、鐵條網が數ヶ所破壊されて居りました。そこを礎大隊が、雪崩れを打つて突撃せられたのであります—

下元旅團長「うむ、そうか、すると、今朝の廟行鎮に於け

金 太 郎

感應幼稚園 青 柳 節 子

登場人物

金 太 郎

熊

鹿

る我が軍の大勝利は、全くこの作江、江下、北川三勇士の勇ましい突進のお蔭である。實に立派な、死に方をして呉れたもんだ、さあ旅團長初め、戦友一同、謹んでこの勇敢なる三勇士に敬禮をしよう—

松下大尉「中隊氣を付け!! 敬禮—

レコード、(三勇士のレコードの最終にある葬式のラッパの部だけ)これが済むと、

—— 靜かに慕 —— (終り)

深山の風景、暫く鳥の鳴き聲をきかせてから熊は右手鹿は左手から同時に速ぎ足にて登場

熊 (中央で出合つてから)おや鹿さんぢやないか。

鹿 (びつくりして)おや、熊さん、今日は。

熊 すい分、久しぶりだね。

鹿 そうだね、すい分久しぶりだ。

熊 鹿さんも、ずつと丈夫だつたのかい。なんだか少し大きくなつたやうだね。

鹿 有難う。お蔭さまで、ずつと此の通り丈夫さ。それに角もこんなに伸びてね、(角をおさへる) すい分、強くなつたよ。

熊 それでも強くなつたつもりかい。おかしいな。この僕の腕の力を御覽よ(腕をふる) ブン／＼うなつてゐるだらう。

鹿 そりやあ熊さんの力は強いさ。でも駈けつこをしたら僕に負けてしまふだらう。

熊 とところが、駈けつこなぞ早いのは、いつも斯うして、(逃げる格好) 逃げて許りゐる弱虫には都合がいゝさ、だが、僕のやうに何が來ても、ビクともしない者には一寸とも自慢にならないぞ。

鹿 おや、すい分偉張るね。

熊 兎に角僕にどの位、力があるか、未だ君は知らないだらう。この足柄山で先づ僕より強いものはないんだ。

鹿 ほんとうかい。

熊 ほんとうさ。だから、足柄山の大将は僕だ。

鹿 えゝ(びつくりして) 足柄山の大将は熊さんなの。

熊 あゝ、僕だ。(偉張つて) さあ、足柄山の大将さまのお通りだ。どいた／＼(手を振る)

鹿 え(後ずさりしながら) 君が足柄山の大将か。君のやうな偉張り屋さんと話すのは、御免だ。さあ、歸へらう。

鹿、さつさと左手へ退場

熊 君のやうな弱虫と一緒にゐるのは僕も御免だ。

熊、鹿を見送つてゐると、鹿直ぐまたあはて、登場

鹿 大變だ。大變だ。(熊の側へ來て) 熊さん。來たよ。來たよ。

熊 何が來たんだ。

鹿 ほら、ほら、向ふから金太郎さんが。(指さす)

熊 金太郎さんでなんだい。

鹿 金太郎さんを知らないの。この頃足柄山へ來て棲んでゐる大變な子供だよ。

熊 えゝ、大變な子供、化物かい。それやあ、大變だ。(逃け出す)

鹿 熊さん。熊さん。化物ぢやないよ。唯ね力持ちで強いだけさ。でも、僕こわくて仕方ないのだよ。

熊 なんだ。僕はまた化物かと思つた。

鹿 ところが、とても力持ちでね、狐や狸、兎さんまでみな金太郎さんのお友達になつてしまつたよ。

熊 狐も狸も。弱虫だな。

鹿 だつてとても、強いんだから仕方ないさ。熊さんだつて、偉張つたところで相撲をとれば乾度ころりと負けてしまふよ。

熊 僕が子供になぞ負けて堪まるものか。

鹿 おや、來たぞ。なんて元氣さうな子供だらう。

熊 (指さして) あれかい。なんだ、あんな小ぼけな子供。

鹿 あれでとても強いんだから。

熊 よし、一つ相撲をとつてやらう。

鹿 熊さんなんてころりと負けてしまふよ。

熊 大丈夫さ。其處で見ても給へ。

鹿 いやだよ。熊さんと一緒に僕まで、ころがされると嫌だからな。向ふの岩の蔭にかくれて、そつと見てゐる

よ。

鹿、右手にかくれる

熊 弱虫だな。

鹿の聲 熊さんしつかり頼むよ。

熊 來たぞ。來たぞ。だが、なんと云つて相撲をとつてやらうな。(考へる)

金太郎元氣に左手より登場

金太郎 (熊をみつけて) おや、熊さん。今日は。

熊 貴方は金太郎さん。

金太郎 さうですよ。熊さん一緒に遊ばない。僕初めて、

此地の方へ遊びに來たので様子が解らないんだよ。

熊 金太郎さん。僕と相撲をとれば遊んでやるよ。

金太郎 相撲。相撲なら僕大好きさ。さあ、やらう。(相撲の用意をする)

熊 だが、金太郎さん。足柄山では大将のこの熊さんだ。

強いよ。いゝかい。後で瘤が出來たなんて、泣かないやうにしてお呉れ。

金太郎 大丈夫、熊さんこそ。

熊 よし、生意氣な。さあ、こい。(飛びさがつて互に見合ふ)

熊 え、(同時に取組む)ちつぽけの癖にウ、。

金太郎 熊さんなぞに負けないぞ。

熊 何を金太郎奴。

金太郎 熊さん、ころがすよ。

熊 なに……ム、。

金太郎 よいしよ

熊、よろ／＼とよろめき倒れる

熊 参つた。

金太郎、駈け寄り熊を引き起す

金太郎 熊さん、痛くなかつたかい。

熊 有難う。どこも痛くない。金太郎さん、ほんとに強い

ね。僕これきり生意氣をしないから、友達にしてお呉れ

よ。

金太郎 あ、意地悪なぞしないで一緒に仲良く遊ぼうよ。

熊 金太郎さん、僕ねいろ／＼の面白い遊びを知つてゐる

よ。

金太郎 さうかい。見せてお呉れよ。

熊 ほら、でんぐり返し。でんぐり返し。

金太郎 (手を打つて)面白い。面白い。ハ、ハ、。

金太郎、熊笑ひながら、退場

鹿 (現れる)足柄山の大将、熊さんもたわいなく負けてし

まつたな。金太郎さんが「よいしよ」と云つたら、ごろ

／＼ところがつて「参つた」だつて、おかしかつたな。

其れにしても金太郎さんは、なんて強いんだらう。僕も

友達にして貰ふう。さあ／＼早く追つかう。(鹿、金太

郎の去つた方へ駈け入る)

(終り)

(相撲の場面などありますから一人で両手を用ひて上

演して頂きたい)